

MENU

メルマガ・アーカイブ

医療経営セミナー紹介

会計事務所紹介

リース会社紹介

保険相談 Q & A

保険のご質問・ご相談はこちら

資産運用のご質問・ご相談はこちら

アドバイスを受けながら手数料なしのファンドが選べる楽天証券の口座開設はこちら


会計事務所のご質問・ご相談はこちら

# メールマガジンアーカイブ

2008/4/25 井上さん、ついに投資家になる！！(3)

[メルマガアーカイブTOPに戻る](#)

[リスクマネジメントラボラトリーのHPへ](#)



すぐにできる！ Vol.16  
忙しいドクターのための資産運用

## ～ 井上さん、ついに投資家になる！！(3)～

こんにちは、リスクマネジメント・ラボラトリー 代表の中澤です。

このシリーズでは積立投資についてRML社のスタッフの例を対談形式でお伝えしたいと思います。

35歳女性・RML社IT戦略室の井上が、将来の為に資産運用をどうすればよいか？（まったくの素人）相談を始めました。。。



[前回のコラム「井上さん、ついに投資家になる！！\(2\)」バックナンバーへリンク](#)

- 後日 -

**中澤** 前回のレビューの後、2月下旬に通常の毎月10万円のほかにスポットで追加をしましたね。

**井上** はい。1月のレビューの時に「無理のない範囲で、かつ長期の資金で追加も検討しては」とのお話がありましたよね。今後のライフプランを考え追加することを決断しました。



**中澤** 追加投資と同時に株価が上がるわけではありませんが、全体に市場環境が低調なときの追加投資は後でよい意味で利いてきますよ。スタートして半年たちますがどうですか？

**井上** 以前と比べると株価や為替などを見るようになりました。今まではまったく気にしていなかったのですが、株価や為替って毎日すごく値動きがあるんですね。私の友人でも最近の株価の下落や急激な円高で嘆いている人もいますが、デイトレードで儲かっている人はいるんですか？

**中澤** 投資とデイトレードは似て非なるものです。私たちが行っている投資は企業や経済の長期的な成長のために資金を供給し、その成果を資金の供給者として享受するものです。時間はかかりますが、特に国際分散投資をしていた場合、過去においては必ず報われてきました。

一方デイトレードは企業や経済の成長とは関係なくごく短時間での価格の変動を予想するものです。良い値段で売れた(買った)ということは、売買の反対側には必ず悪い条件で買った(売った)人が必ずいる、ということです。このような取引で継続的に利益を出し続けるのはとても難しいですよ。

実際、アメリカの証券会社の調査では売買頻度と投資成果はそれなりの相関が認められたそうです。勿論、売買頻度が高い方が投資成果は低かったわけですが。

**井上** なるほど。私が持っているファンドの状況はどうですか？円高に株安だから結構減ってるんじゃないですか？

**中澤** そうですね。投資をスタートしてからの井上さんが保有しているファンドの価格は下記表のように推移



しました。去年の9月からみると全体として約25%強の下落です。井上さんの場合は値下がりしている過程で毎月、そして2月にスポットで購入しているので投資金額120万円に対して3月末の評価額は約102万円と約15%程度の値下がりをしています。

**井上** 前回もそのように感じたんですがニュースなどで受ける印象より値下がりが少ないように感じますね。

**中澤** ドルコスト平均法の効果もありますが、15%の下落を少ないと感じるということは、井上さんの価格変動に対する許容度はかなり高いのかもしれませんね。大切なお金が殖えたり減ったりすることに対しての人間の感じ方は本当に人それぞれです。同じ15%のマイナスでも『大変なことになってしまった。多少損でもやめたい』と感じる方もいます。実はこの点もレビューのチェックポイントなんです。初めて投資をするような場合、どの程度の価格変動があるかの目安がつかないのでコンサバティブなポートフォリオを選びがちですが、時間の経過の中で価格変動に慣れてきてアグレッシブなポートフォリオに変更することはよくあります。

**中澤** レビューのチェックポイントは大きく3つです。

1. 投資目的・投資期間、それから価格変動に対する許容度などに変更はないか。
2. 当初設定したアロケーションの変更の必要はあるか。
3. 利用しているファンドの変更の必要はあるか。

**井上** 私の場合は老後のための20年超の資産運用という目的は変わっていません。追加した分も同じです。値動きもこのくらいなら気になりません。

**中澤** 次に(2)のアロケーションのチェックです。当初4つのファンドを以下のような組合せに設定しました。

日本株(大型): 20%  
 日本株(小型): 10%  
 外国株(先進国): 50%  
 アジア株: 20%

当然ですが市場は日々動いていますから、常に上記の割合であるわけではありません。例えば日本株が大きく値上がりした場合は全体の中で日本株の割合が多くなりますから、元の比率に戻すかどうかを検討する必要があるわけです。これをリバランスといいます。今回はスタートしてまだ半年で大きくバランスが変わっていませんからその必要はないと思います。

**中澤** ファンドの選択基準は『幅広く分散され、コストがリーズナブル』でしたが、ファンドの運用方針は選んだときと変わっていませんから現状維持でいいでしょう。

**井上** なるほど、こんな手順でチェックをしていけば日々の値動きやニュースに惑わされなくなるんですね。今回の投資は老後のための20年以上の投資ですが、特に使い道が決まっているわけではないんですが20年固定はしたくないお金はどうすればよいですか？

**中澤** 通常は債券(ファンド)をつかいます。債券は金利と満期が定められた形でお金を貸すわけですから株式よりも価格変動が小さいのが特徴です。5年程度の期間が取れるなら国内より金利が高い海外の債券ファンドを利用しても良いと思います。

**井上** 検討してみます

	20%	10%	50%	20%	100%	100%
	日本大型株ファンド	日本小型株ファンド	海外株式ファンド	アジア株式ファンド	ポートフォリオの推移	国際分散型バランスファンド
2007年9月	200,000	100,000	500,000	200,000	1,000,000	1,000,000
2007年12月	182,545	90,123	481,786	190,686	945,141	954,015
2008年3月	150,988	68,768	380,832	137,950	738,538	819,982

上記表は、2007年9月末に上記配分で100万円の投資を開始したとして、その後の基準月末の各ファンドの基準価額等および投資ポートフォリオの推移を表したもので当コラムを理解するための手助けを目的として作成をしています。月次の積立や追加の購入は反映していません。

【投資信託の手数料について】

- ・保有にかかわる信託報酬については控除後です。
- ・購入時手数料については考慮していません。
- ・分配金が出た場合は非課税で再投資をするものとします。

以上のような理由によりコラムの内容および実際の投資成果とは異なります。データについては信頼できるものを利用してありますが正確性を保証するものではありません。

上記表は株式市場の変動やその推移が実際の商品や資産形成に与える影響を擬似的に体験するためのものです。この表をもって特定の商品を推奨するものではありません。また、採用している投資信託は元本を保証するものではありませんので解約時期によっては元本割れをする場合があります。このコラムは2008年4月9日に行われた面談をもとに書かれています。

コラムでは株式のみのポートフォリオを採用しているため、参考までに債券が含まれた国際分散型バランスファンドのデータも併記しています。

#### 国際分散型バランスファンドの基本資産配分

日本大型株式: 23%  
日本小型株式: 10%  
米国株式: 15%  
欧州株式: 13%  
アジア太平洋株式: 4%  
日本債券: 17%  
海外債券: 18%

投資についての疑問、質問等はまずはお気軽にメールにてご相談ください。メールにて対応させていただきます。

 積立投資について、相談したい

是非、コンシェルジュにご相談ください!

[▲ PAGE TOP](#)